



Excelを用いた重回帰分析

$$\mathbf{y} = \mathbf{a}_0 + \mathbf{a}_1 \times \mathbf{x}_1 + \mathbf{a}_2 \times \mathbf{x}_2$$

 $\mathbf{y} \mathbf{x}_1 \mathbf{x}_2$

_		
売上	広告費	営業担当者数
8	5	6
9	5	8
13	7	10
11	5	11
14	8	12
17	12	13

回帰分析の実行方法



「データ」タブを選んで、 右側のメニューから「データ分析」を選択



「回帰分析」を選択

回帰分析 入力元 OK 入力 Y 範囲(Y): \$B\$3:\$B\$9 キャンセル 入力 X 範囲(X): \$C\$3:\$D\$9 5 ヘルプ(日) ▼ ラベル(L) 定数に0を使用(Z) □ 有意水準(0) 95 8 出力オブション・ к. 〇一覧の出力先(S): 新規又は次のワークシート(P) 新規ブック(W) 残差 ▼ 残差(R) ■ 残差グラフの作成(D) □ 標準化された残差(T) ─ 観測値グラフの作成の 正規確率 正規確率グラフの作成(N)

回帰分析の入力画面

回帰統計					
重相関 R	0.988				
重決定 R2	0.976				
補正 R2	0.961				
標準誤差	0.663				
観測数	6				

分散分析表

	自由度	変動	分散	川された分散	有意 F
回帰	2	54.682	27.341	62.236	0.004
残差	3	1.318	0.439		
<u>合計</u>	5	56			

	係数	標準誤差	t	P−值
切片	0.874	1.178	0.742	0.512
広告費	0.679	0.163	4.166	0.025
営業担当	0.638	0.172	3.703	0.034
		and the second se		

 $y = a_0 + a_1 \times x_1 + a_2 \times x_2$

残差出力

観測値 🖻	測値 : 売_	残差
1	8.092	-0.092
2	9.368	-0.368
3	12.000	1.000
4	11.281	-0.281
5	13.954	0.046
6	17.306	-0.306

アルバイト先の売上データ

某居酒屋における〇〇〇〇年3月の売上

日	売上	来客数	曜日	天気	予約数
1	579166	168	月	曇り	21–40
2	264879	91	火	曇り	0–20
3	687583	204	水	曇り	21–40
4	731094	242	木	晴	21–40
5	987731	275	金	晴	81-100
6	1041686	293	土	雨	81-100
7	1173588	345	日	晴	101-120
8	399229	142	月	晴	0–20
9	301613	110	火	晴	0–20
10	765529	229	水	晴	21–40
11	922090	248	木	晴	61-80
12	837385	244	金	晴	61-80
13	943239	259	土	晴	101-120
14	1236960	351	E	晴	101-120
15	495375	182	月	雨	0-20

3月の売上 総売上:24,834,926(円) 総来客数:7,417(人) 1人あたり単価:3,348(円/人) 1日あたり売上:801,127(円/日)

時系列分析の例:傾向成分と周期成分を取り入れて、重回帰分析を行う。



重回帰分析を用いる場合のデータの作成例

E	売上	月	火	水	木	金	土	日	晴	曇り	雨
1	579, 166	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
2	264, 879	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
3	687, 583	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
4	731, 094	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
5	987, 731	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
6	1, 041, 686	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
7	1, 173, 588	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
8	399, 229	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
9	301, 613	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
10	765, 529	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
11	922, 090	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0
12	837, 385	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
13	943, 239	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
14	1, 236, 960	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
15	495, 375	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

注意:日曜日は、他の曜日が、0の場合に相当するので、分析データから除く。同様に、天気の雨も除く。







Excel2010 分析ツールの準備



「アドイン」を選択してから右下の「設定」を選択

Excel2010 データ分析の起動方法



「データ」タブを選んで、右側のメニューから「データ分析」を選択

Excel2003以前

🛛 Microsoft Excel - Book1.xls										
	ファイル(E) ≸ ⇒///)	扁集(<u>E</u>) 表示	₩2 挿入Φ	書式(<u>O</u>)		-N(D)	データ(<u>D</u>)	ウル	/ドウ(₩)	
: \\/	, 八円) 11 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1					ワークシ	一下分析(U)	``	_	e' ×
	UNS 明朝	· ·	1 2 - B	<u>U</u> ≣ ∃		- אוגי	·W		• 💁 • 🛓	• • •
	H9	-	fx			マクロ(<u>M</u>	()	•		
	A The state	В	С	D		アドイン	Φ		G	
1	売上予測					オプション	2(<u>0</u>)			
2	亦逝	声を	庁告書	岛素 和力		ウィザー	۲W	•		_
3	222	761.		呂未]旦= 者数		分析ツー	-ル(D) _N			
4	A	8	5	н 20		(* 3			_
5	В	9	5		8					
6	С	13	7	1	0					
7	D	11	5	1	1					_
8	E	14	8	1	2					_
9	F	17	12	1	3					_
10					_					-11
12					-					- 1
13					-					
14 4	▶ N\売上	- 予測/重回	帚分析 /			<				>
	の調整(R) -		イプ(山)・ 丶	хПО	A		1 34	<i>3</i> -	A - ≡	
עיבר.	K						NUM			
112							ROM			

データ分析			
 分析ツール(A) ヒストグラム 移動平均 乱数発生 順位と百分位数 回帰分析 サンプリング t 検定: 一対の標本による平均 t 検定: 等分散を仮定した 2 標 t 検定: 公散が等しくないと仮定 2 検定: 2標本による平均の検え 	の検定 の検定 季による検定 EUた 2 標本による検定 E	OK (キャンセル) ヘルブ(<u>H</u>)	
回帰分析		5	R
入力元 入力 Y 範囲(Y): 入力 X 範囲(⊗):	\$B\$3:\$B\$9 玉 \$C\$3:\$D\$9 玉 定数(: 0 を使用(2)	OK キャンセル ふ ヘルプ(H)	

入力元 入力 Y 範囲(Y): 入力 X 範囲(S): ▼ ラベル(L) □ 5 □ 有意水準(Q) 95	\$B\$3:\$B\$9 \$C\$3:\$D\$9 副数に0を使用(Z) %	L ₂	OK キャンセル ヘルプ(<u>H</u>)
 出力オプション 一覧の出力先(S): ● 新規又は次のワークシート(P) ● 新規ブック(W) ■ 新規ブック(W) 			
1922 ■ 残差(B) ■ 標準化された残差(T) 正規確率 ■ 正規確率グラフの作成(N)	 ■ 残差グラフの作成(D) ■ 観測値グラフの作成① 		

「ツール」から「分析ツール」を選択する。 回帰分析を選択する。

なお、「分析ツール」が項目にない場合は、「アドイン」でチェックして機能をインストールする。